



OBAYASHI
ROAD

大林道路株式会社

CSR報告書 2011

企業理念

～大林道路からのお約束～

3つのテーマからなる、大林道路の企業理念をご紹介します。

豊かな生活環境の創造に向けて

社会基盤、産業基盤、生活基盤等において、安全で、快適で豊かな環境を創造し、サービスを提供することにより、人々に真の満足を与え、生活の向上と社会の発展に貢献します。

地域社会と共に歩み

企業行動を営むそれぞれの地域社会において、事業を通じ、また、その地域の一員として溶け込み、地域社会の発展に尽くします。

人間尊重の経営を行います

従業員一人ひとりの個性を生かし、誇りと働きがい、生きがいのある場を提供し、また、当社と関係のある全ての人々が幸せとなることを願い行動します。

経営規範

1. 人々の期待に応え、時代を先取りした技術力により、新たな価値を創ります。
2. 創造力豊かな人を育て、柔軟な組織のもとで、生き生きとした職場を創ります。
3. 良き企業市民として、社会と文化の発展に寄与します。

Contents

—目次—

目次／編集方針／企業理念／経営規範	1
トップコミットメント／CSR 推進の枠組み	2
コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス	3
東日本大震災への取り組み	4

豊かな生活環境の創造に向けて

良質な工事・製品の提供	5
価値ある情報の提供	6

地域社会と共に歩み

地域住民との良好な関係の構築	7
地球環境への配慮／ シリーズ 大林道路の技術“蘇る”	8
特集 熊本アスファルト混合所	9

人間尊重の経営を行います

安全衛生方針	10
人材育成・職場環境	11
大林道路の事業	12

編集方針

大林道路は、2009年からCSR報告書を発行しています。この報告書では、右記に示した企業理念の項目に沿った形で内容を構成し、ステークホルダーの皆さまに私たちの取り組みをできるだけわかりやすくお伝えできるよう心がけ、編集しております。

●対象期間

2010年度（2010年4月から2011年3月まで。一部それ以前からの取り組みや直近の活動も掲載）

●発行時期

2011年10月（次回は2012年10月を予定）

●お問い合わせ先

大林道路株式会社 本店総務部 総務課
〒131-8540 東京都墨田区堤通1-19-9
リバーサイド隅田セントラルタワー 5階
TEL：03-3618-6500
FAX：03-3618-6597

トップコミットメント

東日本大震災にあたって

2011年3月11日に発生した東日本大震災により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

当社は、地震発生後直ちに「事業継続計画（BCP）」に基づき対策本部を設置し、社員とその家族の安否確認を実施しました。併せて、お客様の被害状況の調査、インフラ復旧に向けた資機材・人員の確保、技術系社員の派遣、被災地への緊急支援物資の搬送など、さまざまな活動・支援を行ってまいりました。

また、国土の基盤整備を担う企業として高速道路をはじめとした交通インフラの応急復旧工事に協力し、復旧活動・事業活動が早期に再開できるよう努めてまいりました。

今後の本格的な復興に向け、当社の技術や経験で培った力を結集して、引き続き全力で取り組んでまいります。

CSR報告書2011発刊にあたって

当社は、社会の皆様からの信頼を得ることによって成長し続けることができます。このことを事業活動の基本として、私どもは期待される役割、ニーズを把握し、それにお応えすることで社会の皆様の満足度を高めてまいります。そのために、何事にも誠意をもって対応することをお約束します。

私どものCSR活動は、常に企業理念を念頭において行われています。豊かな生活環境の創造、地域社会との共生、人間尊重の経営という企業理念を実現させるため、今後も最大限の努力を続けてまいります。しかしながら、まだまだ至らぬ点やご指摘があるかと思えます。皆様からの忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いに存じます。

2011年10月

取締役社長 **石井哲夫**



CSR推進の枠組み

大林道路のCSRは、
企業理念を常に念頭に置き

- 豊かな生活環境の創造
 - 地域社会との共生
 - 人間尊重の経営
- の実現を目指すことです。

大林道路のCSR活動に必要な第一歩とは
「ステークホルダーに対する誠意ある企業活動」

であると考えています。

大林道路のCSR活動はコンプライアンスを基本とし、これまでの企業活動に加えて説明責任や情報開示を企業自らの意思で行い、地域社会への積極的な働きかけを行うことが大切であると考えています。



コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

経営の透明性、健全性を高めるために

コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスを基盤とする経営を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制

大林道路は、コーポレート・ガバナンスを通じて内部統制をしていくことがコンプライアンス経営の根幹であり、健全な企業として発展していく上で不可欠な要素であると考えています。

その考えのもと、正しい経営判断を行い、実行できるよう、取締役会、経営会議、企業倫理委員会などで十分審議し、適宜、監査役に報告し、適切な監査を受けています。

また、企業会計については、独立の立場である会計監査人から監査を受けています。

内部統制体制

内部監査担当部署による各部門の業務執行状況、コンプライアンスおよび財務報告に係る内部統制システムの監査を定期的実施しています。2010年度は、本店を含む全店において実地監査を行いました。

危機管理体制

危機管理対策規程を整備、運用し、危機を未然に防ぐとともに、万一発生した場合にも迅速かつ適切な対応ができるよう対策をとっています。また、本店を含む全店においてBCP（事業継続計画）を策定し、自然災害など、予期せぬ事態が発生した時にも、事業が継続できるよう対策をとっています。

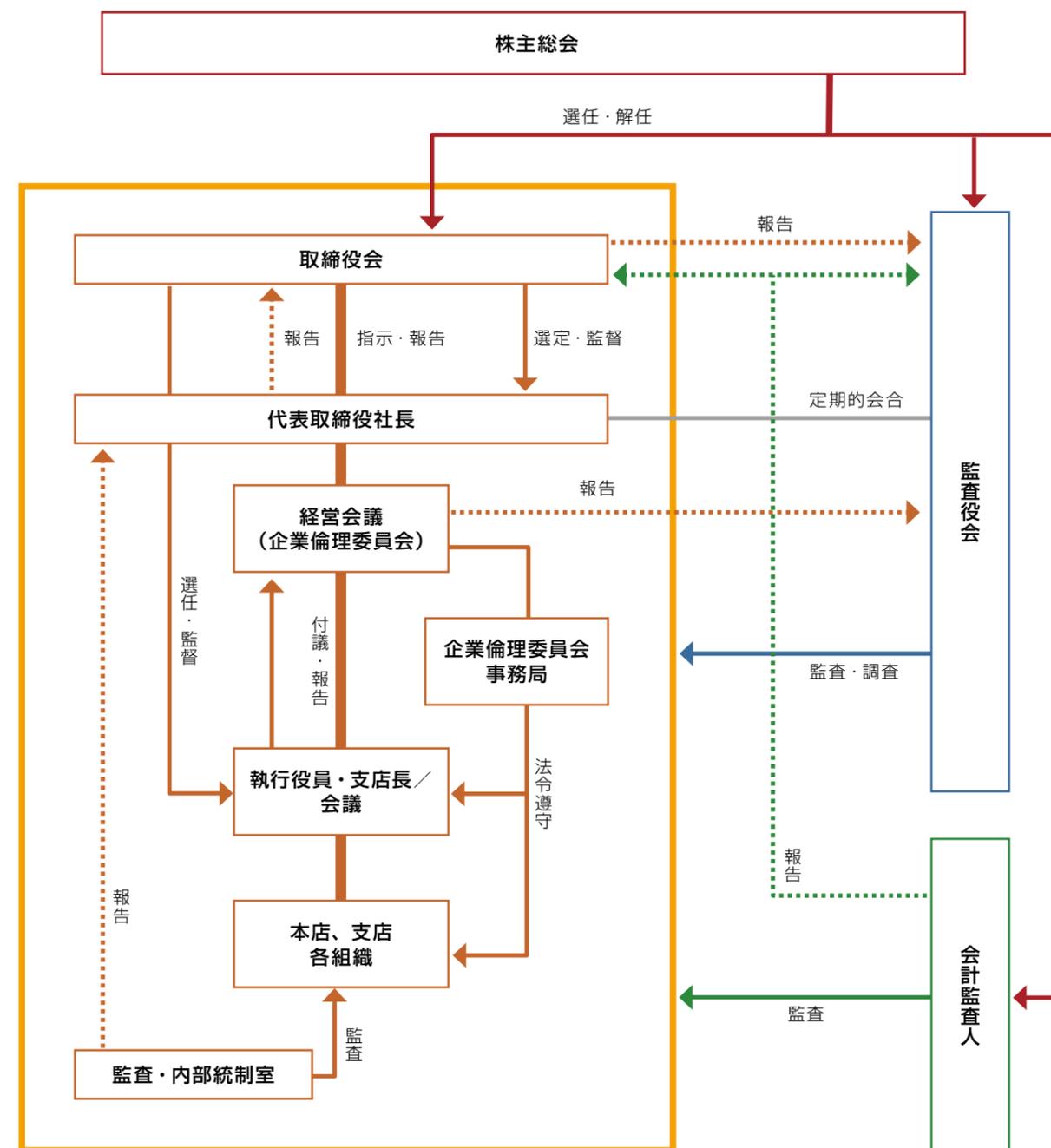
情報管理・開示体制

情報セキュリティ、個人情報保護に関する基本方針や規程を整備し緊急事態の発生に備えた予防対策を講じています。また、法令開示情報の遵守と適時・適切な企業情報の開示に努めています。

コンプライアンス

企業倫理遵守のための基本方針を策定し、定期的に企業倫理委員会を開催することで、企業倫理遵守の徹底を図っています。また、監査役によるモニタリングを定期的に行っています。直近のモニタリング結果では、研修・教育の更なる充実と継続が必要であると総括されました。

コーポレート・ガバナンス体制図



東日本大震災への取り組み

地震発生直後からの主な対応

- 3月11日(金) 14時46分**
・地震発生(マグニチュード9.0)
- 15時00分**
・災害対策本部を立ち上げ
事業継続計画(BCP)に基づき、社員およびその家族の安否確認の実施、お客様および施工物件の被害状況の調査、復旧工事へ向けた資機材・人員の確保、支援物資の調達など、予め定められた役割分担に基づき初動対応を行う
- 22時00分**
・被災地域の全社員92%の安否を確認
- 3月12日(土) 13時00分**
・東北支店(仙台)に向け技術系社員の派遣
- 16時00分**
・被災地域の全社員の無事を確認

支援活動

今回の震災では、全国から集められた資機材、飲食料、生活物資などを東北支店管内に向け搬送しました。また、社員から被災された方々への義援金を募り、当社の協力会社で組織する安全衛生協会および会社からの義援金とを併せ日本赤十字社を通じ寄付しました。



復旧工事

東北地方の各高速道路、首都高速道路湾岸線、東関東自動車道など首都圏の高速道路の復旧工事に着手し、早期の交通開放に努めました。



3月12日(土) 12時30分ごろ
東北道 須賀川IC付近 下り線



3月14日(月) 9時30分ごろ
東北道 矢吹IC付近 上り線



4月13日(水) 7時30分ごろ
常磐自動車道
いわき湯本~いわき勿来IC 下り線

続々と他県ナンバーの緊急車両が被災地に向けて走行している。郡山管理事務所管内の東北道・磐越道では3月11日(金)夜から緊急復旧工事を行っていた。被災地で緊急車両が災害救援活動するためには、少しでも早い道路の復旧が必要であった。

原発事故による放射能汚染への不安の中、3月11日(金)の地震以降降休むことなく復旧作業に当たっていた。1日当たり20力所ほど、段差修正やクラック処理を行った。

4月11日(月)に福島県浜通りを震源とする余震で下り線2車線を完全にふさぐ大規模土砂崩れが発生。余震の中、夜を徹して土砂撤去等の復旧作業を行い、4月14日(木)16時30分に通行止めが解除となった。

支援物資を被災地へ輸送

全国の本支店からの支援物資のうち、石巻市・東松島市・南三陸町の被災地の自治体・ボランティアセンターと打ち合わせ、必要な物資を仙台より届けました。物資を運搬するトラックや燃料の確保に苦労しましたが、震災直後の3月20日から5月上旬までの間に計9力所、約1万食の食料と1,800ℓの飲料水、医薬品を届け、被災された方々のお役に立つことができました。

東日本大震災発生時施工現場を緊急避難場所として開放

震災発生時、錦糸公園(東京都墨田区)には周辺の住民や勤務の方々、次々と避難して来られました。避難して来られた皆さんを、発注者と協議し緊急開放することにした当社施工中の野球場に誘導し、一晩中照明を点灯して緊急避難場所として提供しました。



復旧工事に携わった当社職員のインタビュー記事が新聞に掲載されました

画像をクリックすると拡大します

建設通信新聞(掲載日:2011年10月5日)

当社は、今後も復旧工事などを通じ、一日も早い被災地域の復興に全力で取り組んでまいります。

豊かな生活環境の創造に向けて

良質な工事・製品の提供

方針に基づき、ニーズに応じた高い品質を確保します

大林道路の品質の維持・向上への取り組みと、安全・安心な環境の創造に資する技術をご紹介します。

品質方針

私達は確かなものづくりにより顧客・社会からの信頼に応えます。

- ①顧客・社会からの要求に対する迅速な対応
- ②人材育成及び業務の継続的改善に努め確かな技術を製品に反映

凍結抑制性能の管理技術を開発

寒冷期の安全走行に資する“オークサイレント”や“ルビッド”の凍結抑制性能を強制的に凍結させた供試体の表面にゴムタイヤを走らせて、氷膜の剥がれやすさを評価する方法を改善し、新たな管理技術を開発しました。



雨水の流出を調整する技術の展開

地球温暖化やヒートアイランド現象もあり、台風やゲリラ豪雨など想定外の量の降雨による水害が増加しています。大林道路は、舗装の路面を流下した雨水の排水路への到達時間を調整することで、洪水の少ない安全・安心な街づくりに取り組んでいます。

“打ち水グラスパーク”は、自動灌水方式の緑化ブロック舗装です。ブロック舗装に設けた芝の生育枠により、雨水の流出が効果的に抑制されます。



また、透水性ILBを適宜組み合わせることにより広範囲の対策を実現しています。



“オークスルー”は、透水性アスファルト舗装技術です。雨水を地中に浸透させて、排水構造物への流下の集中を緩和します。従来は歩道や駐車場等に適用していましたが、車道への適用にも取り組んでいます。



“地下貯水工法”は、雨水を地下に貯留し、排水路への流出を抑制するとともに、貯留した水を植栽の灌水などに有効に活用する工法です。雨水の流出抑制効果を一定量確保しやすい特長があります。



施工技術発表会

現場で実践された施工技術に関する最新の情報を水平展開することで、全店の技術レベルを向上することを目的に、11月9日、墨田区曳舟文化センターにて施工技術発表会を開催いたしました。

「新たな一歩（環境の時代）」をメインテーマに16名が15分間ずつの発表を行った他、20回の節目を迎えた今回は、現場の工夫を募ったアイデアコンクール、社員家族が描く「未来の道路」の絵画展を併せて開催しました。



製品担当者研修会

大林道路ではアスファルト混合所に従事する品質管理担当者を対象とした地区別研修会を実施しております。研修計画に沿った講義や試験実習を通して、品質管理の基本から地域のニーズに合わせた最新技術に至るまで、業務に必要な豊富な知識と確かな技術を持った人材の育成を目指します。また、職員同士の情報交換の場となると共に、互いに刺激を受け切磋琢磨する有意義な研修会となっています。



価値ある情報の提供

お客様にご満足いただくために

大林道路はさまざまな機会を通じて、「価値ある情報」を提供しています。

民間工場向けパンフレット

「アセットキーパー」はさまざまな企業の工場（資産）の維持・管理に大林道路の技術を利用いただくためのカタログです。「チェック&リサーチ」では、傷んだ舗装や排水管などを事前に調査し、「メンテナンス」では調査結果をもとにして維持・管理の提案をします。「リニューアル」では環境保全・資源の有効利用・景観を考慮した提案をしています。新たにパンフレットを作成し、情報提供しています。



管更生技術総合パンフレット



「管路のリニューアルGUIDE」は、老朽化した下水管の「調査」→「診断」→「設計」→「施工」とトータルでサポートする大林道路の工法を紹介するカタログです。今回、下水管のみではなく、上水・工業用水・農水にも対応できるノーディーパイプ工法と、調査ツールとして内面形状計測が新たに加わりました。管更生技術総合パンフレットとして、情報提供しています。



ISAP2010 (International Society for Asphalt Pavements)

2010年8月1日～6日の6日間、国際アスファルト舗装協会と日本道路協会が主催する舗装の国際会議が名古屋市で開催されました。この国際会議は1962年から4～5年間隔で継続的に行われており、アジアでは第11回となる今回が初めてでした。メインテーマは「環境と安全」で開催国である日本他、欧米やアジアから全283編の論文が発表され活発な議論が展開されました。当社からは3編の論文発表を行った他、技術展示ブースにて技術展示を行い、世界に舗装技術を発信しました。



論文発表の様子

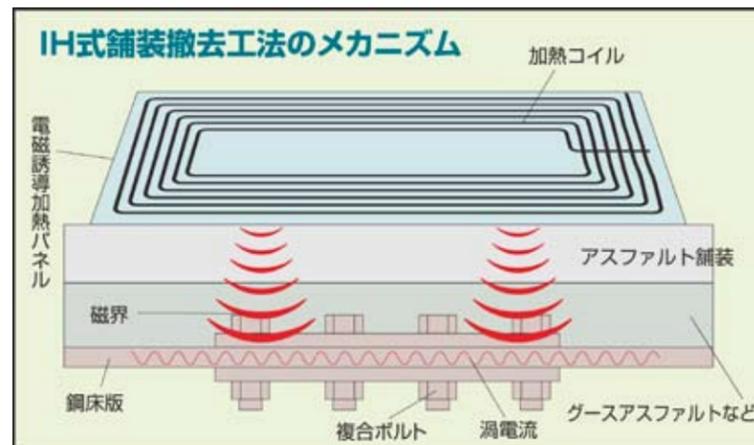


技術展示の様子

ハイウェイテクノフェア

2010年11月11日～12日の2日間、ハイウェイテクノフェア2010がNEXCOグループの主催・協賛により東京ビックサイトで開催されました。当社は、「IH式舗装撤去工法*」他3技術を出展しました。フェアの来場総数は10,084名、その内、当社ブースに入って説明を聞いて頂いた方は400名余りでした。特に当社ブースの前面で流した技術ビデオは好評で、往來する来場者の殆どの方に足を止めていただき、主催者によるアンケートの集計で、「IH式舗装撤去工法」が舗装関連で唯一、来場者が興味・関心を持ったとしたカウントが高かった展示製品として名を連ねました。

※IH式舗装撤去工法は、鋼床版上のアスファルト舗装の撤去作業を騒音・振動の少ない安全で効率的なものとし、かつ 鋼床版を傷つけずに行う特長を活かし、騒音対策を要する都市部の施工や施工効率を重視する長大橋の施工などで広く活用され、施工実績を伸ばしています。



IH式舗装撤去工法のメカニズム



施工状況



展示ブースの様子

地域社会と共に歩み

地域住民との良好な関係の構築

各種活動で地域に貢献します

大林道路は、良き企業市民として社会文化の発展に寄与していきます。

●中国支店

地域の方々とお花見で交流

2010年10月21日、国道188号末武電線共同溝工事において、地域住民との交流のため、従事職員が「お花見交流会」に参加しました。

また、皮手袋、台車、枝切りはさみの贈呈や駐車場の整備などの工事をしたことに対して、下松市役所と「花岡バラづくりの会」から感謝状をいただきました。



●九州支店

企業訪問の受入れを実施

2010年12月8日、長崎県立長崎南高等学校の生徒6名の企業訪問を受けました。当日は、本店にて建設業の特徴や当社の事業内容を説明し、質疑応答を行いました。今後もこのような活動を継続し、私たちの仕事を身近に感じてもらいたいと考えています。



●大阪支店

地域の子どもたちに現場見学会を実施

地域の子どもたちへの現場見学会を開催しました。普段見慣れない現場内や間近で見る重機に、子どもたちはとても興味深げでした。将来有望な子どもたちに、工事現場への興味関心を深めてもらえることを期待しています。



●四国支店

インターンシップの受入れを実施

2010年10月1日、香川アスファルト混合所において、香川県立石田高等学校農業土木科の生徒2名のインターンシップを受け入れ、合材製造の概要と工場内見学・アスファルト合材の製造作業を体験してもらいました。



●北信越支店

工業高校生徒に見学会を実施

新発田南高校(2、3年生)、米沢工業高校(3年生)を対象とした見学会を実施しました。情報化施工の説明・体験および現場での施工状況の見学、コンクリート舗装施工状況の見学を行い、当社職員が参加者に詳細を説明しました。



●中部支店

現場見学会の開催に協力

三重県四日市市の北勢バイパスの一部供用開始に伴い、北勢国道事務所主催で地域住民の方々への見学会が行われた際、当社は北勢国道労働安全衛生協議会監督官支部として協力しました。



●北海道支店

現場事務所にAEDを設置

新千歳空港誘導路舗装外一連工事における現場事務所にAED(自動体外式除細動器)を設置しました。事務所の道路脇にAED看板を設置し、一般通行者や周辺工事業者に広報することで緊急時への対応を行いました。



●東北支店

長期保証対象工事の現場見学会を実施

岩手河川国道事務所管内及び岩手県内ではじめての長期保証対象工事である『平成22年度 向中野道路舗装工事』において、自治体職員、地元建設会社を対象とした現場見学会を開催し、長期保証工事についての説明を行いました。また、県立盛岡工業高等学校土木科の生徒を対象とした現場見学会も開催しました。



●関東支店

第43回ふくろ祭りに協力

2010年9月25日、池袋駅西口駅前広場整備の完成に伴うお披露目会と第43回ふくろ祭りが開催されました。地元の方々長い間期待されていた駅前の再開と、例年通りのふくろ祭りの開催に、施工者として協力と協賛をしました。



地球環境への配慮

環境に関する監視測定結果

私たちは環境方針に基づき環境目標を定め、日々監視測定に努めています。

1. アスファルト合材を 1t 製造するのにかかる重油量

	2008 年度	2009 年度	2010 年度
重油使用量目標値…9.0ℓ	8.9ℓ / t	8.8ℓ / t	8.9ℓ / t

2. 事務用品に占める環境商品率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度
事務用品に占める環境商品率 目標…前年より環境商品率を高める	86.90%	86.90%	87.40%

3. エネルギー使用量

		2008 年度	2009 年度	2010 年度	増減
オフィス部門	床面積 1㎡当たりのエネルギー使用量(原油換算) 目標…前年に比べ 1% の削減	—	31.82ℓ / ㎡	36.06ℓ / ㎡	13.3% 増
	再生骨材を 1t 製造するためのエネルギー使用量(原油換算) 目標…前年に比べ 1% の削減	—	3.04ℓ / t	2.78ℓ / t	8.6% 減

舗装からCO₂排出量を低減する

道路を舗装すると、自動車の走行がスムーズになり、非舗装の状態と比較して自動車からのCO₂の排出量が減少します。舗装にポットホール等の破損が生じると減速・加速を繰り返すことで自動車の排気量が増え、また交通渋滞にも結びつくためCO₂の排出量が増加します。大林道路は舗装のメンテナンスを適切に行い良好な状態を維持することが、結果的にCO₂の排出量の増加を抑制すると考え、合理的なメンテナンス計画を提案するPMMS (Pavement Maintenance Management System) を提案しています。

エコスムーザーはアスファルト混合物製造時のCO₂排出量を低減する技術です。大林道路はこの他にも、省エネバーナ、太陽光発電、ストックヤードに屋根をつけて骨材含水量の低減等で製造時のCO₂排出量の低減に積極的に取り組んでいます。また、工事においても施工時間帯の工夫や、重機の省エネ運転励行の他、ICT (Information and Communication Technology) を駆使して施工効率を上げることで、工事のCO₂排出量の低減に取り組んでいます。

PMMS 調査状況



路面状態を目視で診断



気になる路面の変形をmm単位で測定



構造的な劣化を非破壊で調査 (FWD 測定車)



エコスムーザーの試験施工



ICT を用いたコンクリート舗装の施工

シリーズ 大林道路の技術“蘇る”

舗装が蘇る

● エコスムーザー

加熱アスファルト混合物の製造温度を30℃程度下げることでCO₂の排出量を15%削減する技術です。温暖化に配慮しつつ舗装を蘇らせます。



● スラリーバック

流動性に富んだスラリー状の常温硬化型路面補修材です。簡単な工事で舗装の快適な使い心地を蘇らせます。



● IH 式舗装撤去工法

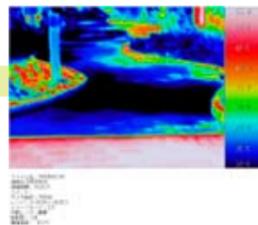
鋼床版上のアスファルト舗装の撤去時の騒音、振動を低減する技術です。都市部の鋼橋の舗装を周辺環境への影響を抑えて蘇らせます。



環境が蘇る

● 打ち水シリーズ

舗装の下面に給水、路面に揚水して夏期に打ち水効果を発揮する技術です。地面が土だったころの熱環境を蘇らせます。



● オークサイレント

空隙とゴムチップで交通騒音を低減し、静かな住環境を蘇らせます。



● オーククレイシリーズ

砂質土と現地発生土や購入土を骨材に用いた、自然な土の色や風合いを有する土系舗装です。失われつつある土の感触を蘇らせます。



管渠が蘇る

● 光硬化工法

既設の下水道管や工場排水管等を非開削でリニューアルする環境に優しい工法です。管の種類や劣化の度合いに応じた最適な方法で蘇らせます。



● SPR 工法

中・大口径の老朽下水道を新管以上に更生します。非開削で水を通しながらの施工が可能です。



● 管内形状計測ロボット

管渠の状態を内部からmm単位で正確に測定し、把握する技術です。既設管渠の調査の他、光硬化工法の品質管理にも使用できます。



自然が蘇る

● グリーンキューブライト

軽量でローコストな薄層の屋上緑化技術です。都会の空間に緑を蘇らせます。



● らせん魚道

遡上する鮭や鱒の通路となるらせん階段です。ダムの前後の魚の生態系を蘇らせます。



● ビートルファーム

間伐材を土に戻しつつ、カブトムシが生育できる技術です。昆虫のいる空間を蘇らせます。



特集

人と街と未来をつなぐ
新しい環境配慮型の工場

九州支店 熊本アスファルト混合所

当社は、CSRの観点から常に環境へ配慮した事業展開を行っています。
中でも徹底したエコロジー工場として開発された熊本アスファルト混合所をご紹介します。



ストックヤードの太陽光パネル



「都市型」アスファルトプラント

リサイクルプラント



最新鋭の「都市型」アスファルトプラント

熊本アスファルト混合所では徹底したコンピュータ管理システムを導入し、品質の安定したアスファルト合材の製造・出荷を効率的に行うことが可能となりました。エネルギー消費も少なくなり、地球温暖化の原因となるCO₂の排出量削減にもつながっています。

また最新鋭の脱臭・防音・防塵装置の導入や敷地を高い塀で囲う等、周辺地域の皆様に安心して生活していただけるように配慮した「都市型」アスファルトプラントとして運営しています。



脱臭装置

燃焼で発生するガスを高熱処理することで臭気防止をします。

資源を有効利用するためのリサイクルプラント

リサイクルプラントとは廃棄物を分別し、再生処理するための施設です。熊本アスファルト混合所では古い道路や建物を補修・解体する際に発生したアスファルト廃材やコンクリート廃材を再び資材として有効利用できるような完全循環型事業を行っています。



製品化された材料の最大保管量

再生骨材 700m³ 再生路盤材 3,000m³
再生粒度調整碎石 1,200m³

クリーンエネルギー設備の導入

大林道路のアスファルトプラントとして初めてとなる太陽光発電設備を導入しました。混合所の動力や事務所の電力として使用する他、最大で50kWとなる発電量はモニター表示されており、職員の省エネルギーに対する意識向上にも役立っています。また、消費電力が少なく長寿命であるLED電球を事務所の照明灯に採用することで、さらなる省エネルギーと環境保全に努めています。



地球環境を改善する技術の活用

プラント構内に整備された駐車場には自動で給水するシステムを取り入れた大林道路の緑化舗装技術「打ち水ガラスパーク」を採用しました。そのため、芝面管理に煩わされることなく夏季路面温度の上昇を抑えることに成功し、地域の熱環境改善に貢献しています。



所在地 : 熊本県熊本市中江町 1-26
 施設概要 : アスファルトプラント 120t/h
 リサイクルプラント 60th/h
 合材サイロ 140t、120t
 クラッシングプラント 60t/h
 取扱品目 : アスファルト合材、再生アスファルト合材、再生路盤材、再生粒度調整碎石、アスファルト廃材(受入)、コンクリート廃材(受入)

人間尊重の経営を行います

安全衛生方針

災害ゼロをめざして

安全衛生方針（抜粋）

私たちは、「自分は絶対に、事故・災害を起こさない」という強い気持ちを持って作業に従事します。

安全衛生スローガン

繰り返し型労働災害、公衆災害および交通事故の絶滅
～リスクアセスメント活動を確実に展開しよう～

安全衛生目標

① 災害抑制率

- 度数率0.60以下（休業4日以上の労働災害5件以下）
- 強度率0.03以下（労働損失日数270日以下）

② 安全目標

- 不安全状態・不安全行動をしない、させない。
- 車両系建設機械および車両による労働災害を起こさない。
- 交通事故を起こさない。
- アスファルト混合所で労働災害を起こさない。
- 公衆災害を起こさない。

③ 衛生目標

- 職業性疾病（特に熱中症）を防止する。
- 社員の健康状態をよく把握する。
- 協力会社従業員の健康管理状況をよく把握する。

「リスク一覧表」で現場特有の危険要因をチェック

当社では過去のヒヤリ・ハット体験を基に、現場特有の事例を300項目掲載した「リスク一覧表」を作成しています。各現場では、一覧表から、自分の現場で可能性の高いリスクを50個ピックアップし、毎日の打ち合わせですべての現場従事者がリスクを共有します。このリスクアセスメントによって事故や災害を起こさないよう努めています。

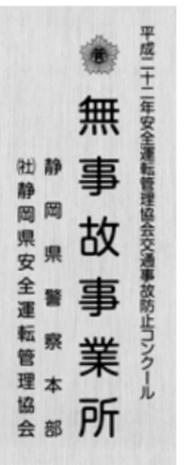
私たちの作業場の危険要因はこれだ！
～この現場特有の50個の危険要因を確認し、今日の作業の危険要因を2つ見つけてみよう～

No.	起因物	リスクの内容(2枚-1)
23	車両	通勤、移動時、交通事故を起こす、被害にあう。
95	重機	他業者と隣接作業中にバックホウで他業者作業員に激突する。
105	重機	重機・機械を停止しないまま点検作業をして巻き込まれる。
109	重機	一人作業でフィニッシャの点検中、回転部に巻き込まれる。
214	開口部	開口部、高所から転落する。

毎日のリスクアセスメントに活用している「リスク一覧表」

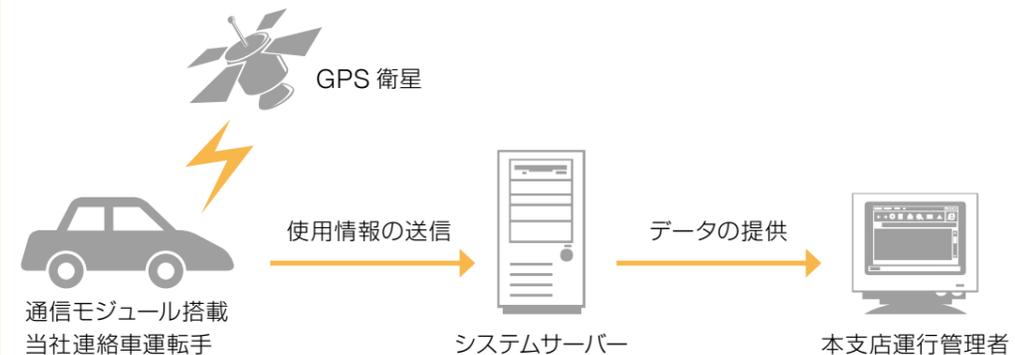
目標達成のための取り組み

- ・不慣れな者（新規入場者）には、「一週間安全チェックカード」を渡し、安全作業を教育しています。
- ・重機（バックホウ）を操作する者には、「バックホウKYカード」を渡し、KY（危険予知）行動を実践させています。
- ・「交通事故を起こさない」意識を高めるため、安全運転管理協会の主催する「交通事故防止コンクール」に参加しています。



安全運転を推進する「車両運行管理システム」

移動用のライトバン約500台が稼働しており、安全運転を推進するため、一部で「車両運行管理システム」を導入しました。



- 走行距離 ● 位置情報
- 燃費情報（一部車両除く）
- 加減速
- 「危険挙動発生お知らせメール」など

Web上で車両使用予約

ユーザーID
パスワード

危険挙動（急加速、急減速等）があると、管理者にメールで即時通知されます。これにより、安全運転の意識を高めます。



安全成績優秀者は、安全大会で表彰されます。

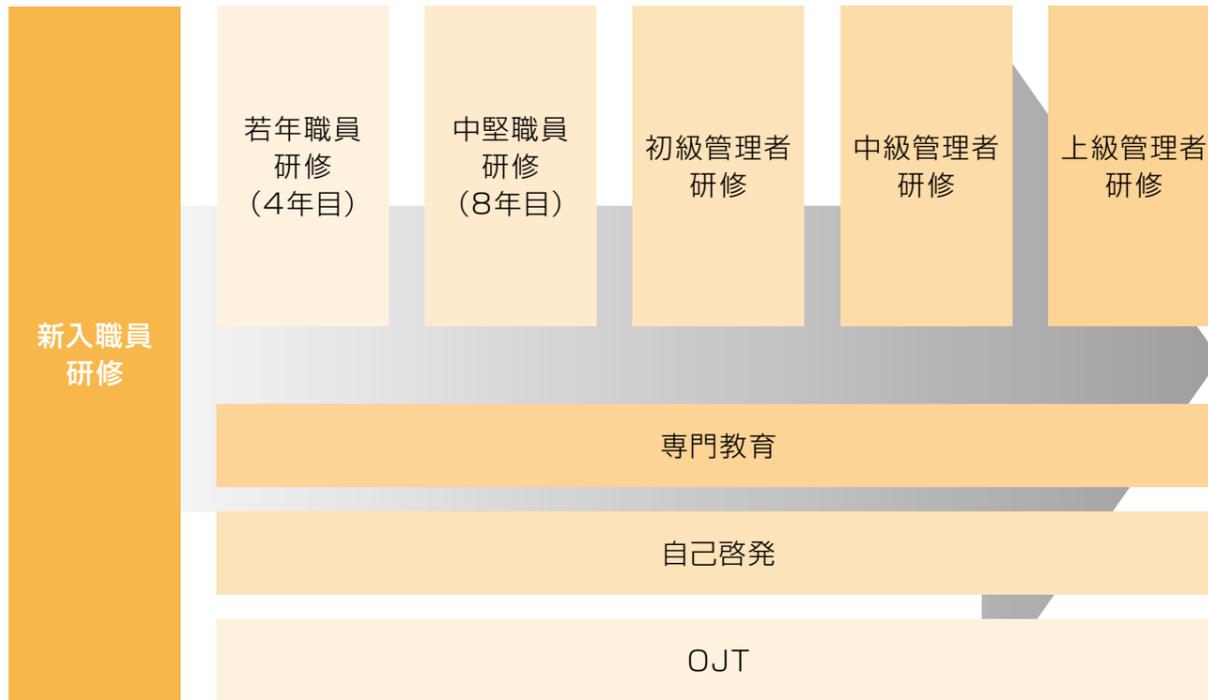


経営者による安全パトロール

従業員の満足のために

教育

人は最大の経営資源。職員のレベルアップが経営基盤の強化につながります。



- OJTを基本に、人材の成長に合わせて階層別教育、専門教育（営業所長研修など）を実施します。
- 通信教育、特別教育制度を利用して自己啓発に努めます。



新入職員研修では、社会人としての基本、現場施工管理の基本を学びます。



営業所長研修では、営業所長＝地域拠点の経営者として活躍できる人材を育成します。

職場環境

働きやすい環境づくりを目指し、全国の拠点で事務所の建て替えを進めています。2009年度に引き続き、2010年度も3カ所の事務所の建て替えを行いました。



熊本営業所 2010年10月完成



愛媛営業所 2010年11月完成



熊本アスファルト混合所 2011年3月完成

ワーク・ライフ・バランス

ライフスタイルの変化に柔軟に対応できるよう、多様な働き方をサポートします。

育児・介護休職制度

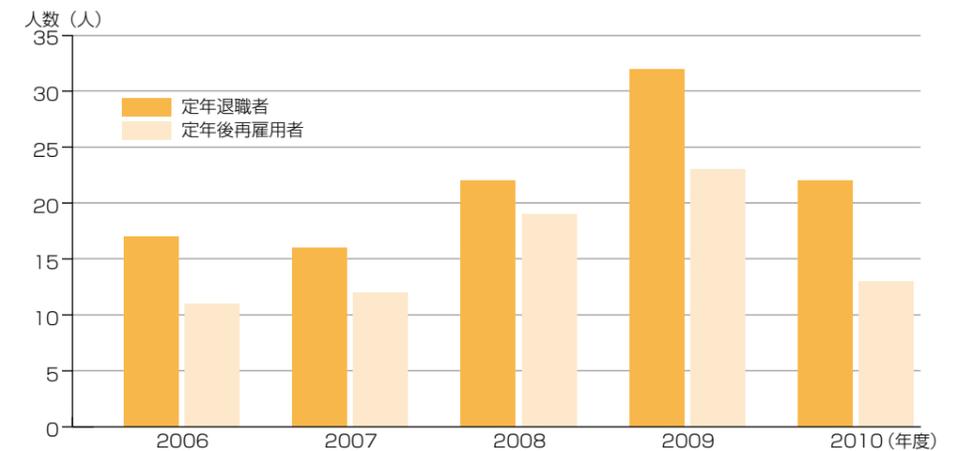
看護・介護休暇制度

育児・介護短時間勤務制度

- 過去5年間の育児休職の取得率は90.9%（母親のみの集計）。育児休職からの復職率は80%です。子育てをしながらも働きやすい環境づくりを目指します。

定年退職者再雇用制度

- 過去5年間の定年退職者は109名。うち72名が再雇用されました。これまで培ってきた経験、専門知識を若手職員に伝承しています。



婦人科検診受診料補助制度

- 2010年度より婦人科検診の受診料補助制度を導入しました。病気の早期発見や不安を解消し、安心して働くことができるようサポートします。

健康相談サービス

- 24時間対応の電話健康相談サービス・メンタルヘルスのカウンセリングサービスを導入しました。従業員だけでなく、家族も利用可能です。

大林道路の事業

大林道路の事業内容、工事事例、財務状況などを紹介します。

大林道路は、1933年の創立以来、道路建設を基軸とした長い歴史に培われた技術により、人々の生活に密着した道路を核に空港・港湾、通信情報施設・下水道、病院・学校、スポーツレジャー施設・公園、工業や商業の各種施設など社会インフラの整備や豊かな生活環境の実現に貢献してまいりました。

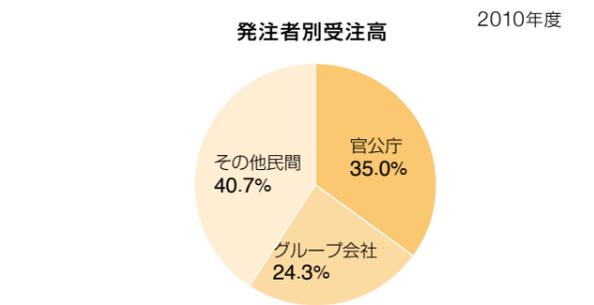
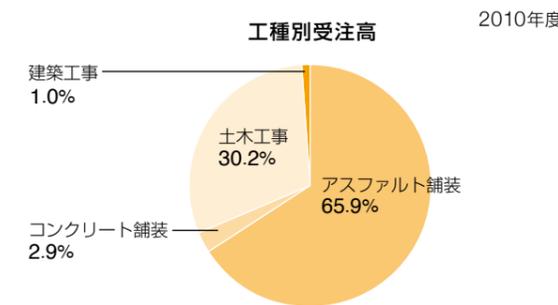
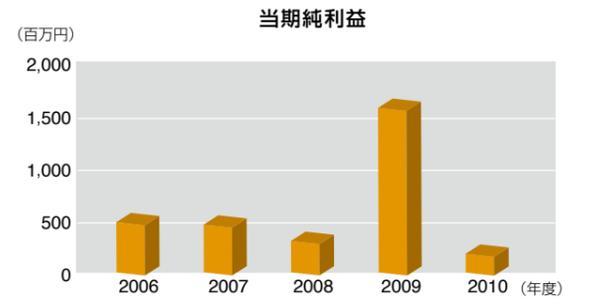
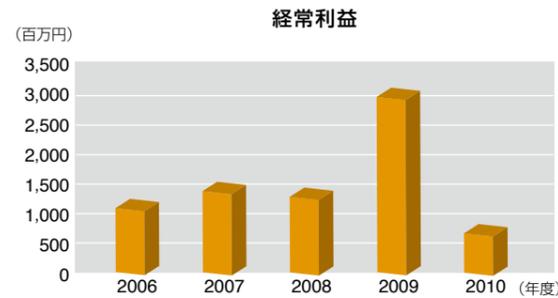
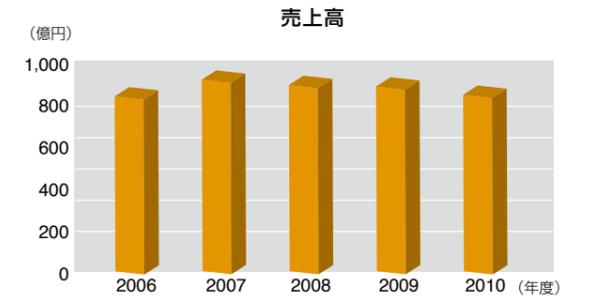
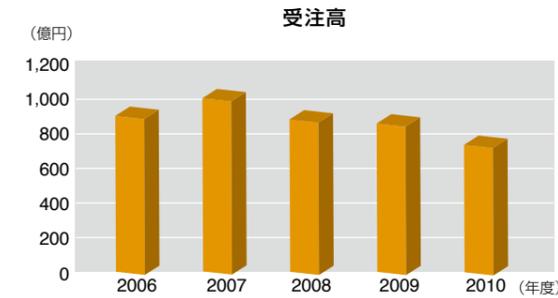
会社概要

- 商号 大林道路株式会社
OBAYASHI ROAD CORPORATION
- 本店所在地 〒131-8540
東京都墨田区堤通1-19-9
リバーサイド隅田セントラルタワー 5階
Tel:03-3618-6500
- 代表者 取締役社長 石井 哲夫
- 創立 1933 (昭和8)年8月26日
- 資本金 6,293百万円 (2011年3月31日現在)
- 従業員数 1,082名 (2011年3月31日現在)
平均年齢 42歳
平均勤続年数 17年
- 株式上場 東京証券取引所市場第一部
- 主な事業領域
 1. 道路工事、舗装工事、造園、敷地造成工事、上下水道工事、その他の土木工事
 2. アスファルト合材等の製造及び販売
 3. アスファルト及び
コンクリート廃材の中間処理業務
- 建設業許可 国土交通大臣許可(特-19) 第2523号
- 建設コンサルタント登録 建21第4207号 道路部門
- 一級建築士事務所登録 大阪府知事登録(二) 第15214号
- 宅地建物取引業許可 国土交通大臣(5) 第4206号

事業所一覧

- 関東支店 〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-20
Tel 03-3296-6680
- 中国支店 〒730-0051
広島市中区大手町4-1-1
Tel 082-243-1966
- 大阪支店 〒530-0047
大阪市北区西天満1-2-5
Tel 06-6360-7110
- 九州支店 〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-2-1
Tel 092-432-0884
- 北海道支店 〒060-0001
札幌市中央区北一条西2-9
Tel 011-241-1828
- 四国支店 〒760-0007
高松市中央町11-11
Tel 087-833-3729
- 東北支店 〒980-0014
仙台市青葉区本町2-5-1
Tel 022-225-4437
- 技術研究所 〒204-0011
東京都清瀬市下清戸4-640
Tel 042-495-6800
- 北信越支店 〒950-0914
新潟市中央区紫竹山1-5-6
Tel 025-243-6807
- 機械センター 〒346-0035
埼玉県久喜市清久町6-5
Tel 0480-23-6100
- 中部支店 〒460-0002
名古屋市中区丸の内2-18-25
Tel 052-222-5161

財務状況



最近の主な工事



北関東自動車道 足利東舗装工事
(栃木県 2011年8月竣工)



錦糸公園野球場整備工事
(東京都 2011年3月竣工)



新千歳空港 誘導路舗装外一連工事
(北海道 2011年3月竣工)



(仮称) コメリHCみやき店新築工事
(佐賀県 2011年3月竣工)



第二京阪道路交野舗装工事
(大阪府 2010年7月竣工)



日沿道 村上IC舗装工事
(新潟県 2011年3月竣工)